

2023年12月21日(木) 19:00~20:00

松川町農村観光交流センターみらい

## 令和5年度第4回 松川町農業振興会議 議事録

### 1. 開会・進行

田中課長

### 2. 挨拶

松下会長

### 3. 協議事項

(1) R5の事業進捗状況について 各担当者より説明

- ①農業従事者・農地面積・遊休農地の推移
- ②各種補助金について
- ③担い手育成事業について
- ④各種団体支援について(認定農業者・畜産協議会・農技連・  
労働力確保・若武者・人と自然にやさしい農業連絡会・  
女性グループ・グリーンツーリズム)
- ⑤農地の賃貸借・売買事業について
- ⑥地域計画(人農地プラン)の策定について

質問・意見

松下会長 親元就農者支援とはどのような事業か。

事務局 県担い手育成基金の方で、親元就農者に対して1度だけ30万円の支援をしていただけの事業。以前は家族経営協定、親が認定農業者、連名で認定農業者になる事その他、昨年度は事業継承といった要件がっていた。しかし要件が厳しかったのか申請件数が少なかったようで、今年度は家族経営協定や事業継承の要件が緩くなっている。親元就農後4年以内であれば、1市町村当たり年間2名を限度として支援していただける。相談は受けるのだが、親が認定農業者でないなど要件に満たない事案があり、今年度は1名のみとなっている。来年度は2名申請していく予定である。

松下会長 最近新規就農者というとIターンを中心にやってきたが、Uターン、息子さんが帰ってきてやる場合にはこれに該当するという解釈でいいのか。

事務局 要件さえクリアできればその通りです。

(2) 最適土地利用総合対策事業による地域協議会での取り組みについて 宮島説明

質問・意見 なし

(3) R6 松川町の将来ビジョンについて 宮島説明  
質問・意見 なし

(4) 農業基本計画について 宮島説明  
質問・意見 なし

(5) 土手焼きについて 小沢説明  
質問・意見 なし

#### 4. 報告事項

(1) 一般社団法人グリーンみらい・まつかわ 設立について 吉川説明  
質問・意見 なし

(2) 化学肥料低減定着対策事業について 宮島説明  
質問・意見

松川町議会総務産業建設委員会 塩澤副委員長

マニユアスプレッダーとはどういった機械か。

JA 松川支所営農課 坂巻課長

機種を選定の際に、JA に相談があった。マニユアスプレッダーにもいろいろなタイプがある。大きいものはトラクターの後ろにつけて牽引して散布するもの。特に面積の大きい果樹園にはそういったものが必要になるが、使うには免許が必要であり、一般貸出が難しい。幅広く使ってもらうように、自走式のもので野菜畑にも使えるマニユアスプレッダーで、積み込みも機械が判定して自分で積み込み、機械が撒いていく。トラクターの後ろにつけるタイプは、たい肥を積み込むのに別にホイールローダーのようなものを持っていき、上から入れないと積み込めないが、そうすると機械が 2 ついることになる。そのため今回は、1 台でたい肥を積み込んで散布もできるタイプを提案した。

松下会長 散布するたい肥は JA で斡旋か。

JA 松川支所営農課 坂巻課長

そうです。バラたい肥の取り扱いを資材の方でやっている。毎年問い合わせもあり注文がくるが、令和 4 年までバラたい肥を扱っていた業者の方でマニユアスプレッダーを持っていて散布をしていってくれていた。しかし散布事業が昨年で終了してしまった。バラたい肥は売るが散布は自分で撒いてくださいという話になってしまった。そういった部分もあり、たい肥機散布の需要が増えてくるのではということで、こういった意見があれば合わせて使わせていただければありがたいという形でお願ひした。

(3) JA より 花粉確保のための技術対策について 坂巻課長

## 質問・意見

農業農村支援センター 木下係長

梨の場合は、受粉樹をそれぞれお持ちになっているので、十分花粉をとる時間があれば、多少多く受粉樹がある方から融通をしていただくというようなことが可能かと思う。ここ数年は、栽培樹と受粉樹がほとんど一緒に咲いてしまうくらいの生育の進み。そういった場合に、十分な花粉の採取ができないということが非常に心配されるので、開花を早めるという仕組みで、石灰窒素が入っている成分を12月中に撒けば、2,3日開花が早くなるというそういったものもあるので、心配な場合はこういったものも考えないといけないかなという気がする。いずれにしても、これからはしっかり貯蔵花粉を蓄えて、翌年に備えてもらうというのが必要。

## 5. 各団体からの活動及び課題・提案事項などの報告

農業農村支援センター 木下係長

全国優良経営体表彰というものがあり、なかひら農場がエントリーしていたが、このたび農林水産大臣賞を受賞いたしまして、2月に授賞式があります。

日本なし産地再生プロジェクトで、2月16日に日本なしの生産振興大会を県の文化センターで開催することになりました。なし栽培を、これから拓げるチャンスということをやっています。まず1つには、今年は、昨年の販売実績でいうと農協の南水の販売平均単価が560円だったということで、それで計算すると4t 220万くらいの高収益が狙える。そして、温暖化が進む中でりんごはかなり厳しい状況になってくるわけですが、梨は低山地では生育障害が問題になってきているという中で、この産地は標高が高く好適地というところがありますし、販売期間が10月でも温度が高いため梨が良く売れるという状況になってくるので、有益性がある。早期多収、省力化、栽培方法でジョイント、平棚、V字、Y字と樹形がいろいろできてきている。そういう技術がある中で、ある程度高収益を狙って、1/3くらい省力化が出来るので、そういうやり方を支援する補助事業が今充実している。そういう物を使いながら、ぜひ梨をもう1回取り組みましょうという内容の大会が開催されるので、ぜひ松川からもたくさんの人に来てもらいたいののでよろしくお願いします。

松下会長 確かに私ももなりんへ品物を出していたが、11月の中旬が今年はかなり暑かったので、りんごを持っていっても、来ているお客さんに“梨はないか”と言われた。名古屋のお客さんではあったが、名古屋の店頭には梨がないという話なので、梨のお客さんもかなりいるのではないかというのを感じた。

認定農業者連絡会 松尾会長

先ほどの火傷病の件で、やはり花粉が入らないということで農家はかなり困ると思うが、蜜蜂の導入を検討される方も多いと思うが、来年の春、蜜蜂を飼うというのは現状どうなのか。

JA 松川支所営農課 坂巻課長

今年増やすというのは調整中。蜜蜂は農協としても増えていこうというので、

営農部の方も承知して養蜂業者の方へあたっているところ。若干別ルートで、養蜂業者に入っていないところの蜜蜂をどうですかという話が入り始めている。一応農協の貸し出しについては、きちんと養蜂業者のルートになっているのでこことちゃんと話をしながら貸し出しを進めていきたいと思っている。

アドバイザー アグロエコロジー研究科 吉田太郎氏

今日は夕方から有機の集まりがあったので、それと若干関係することを3つ程申し上げたい。今年有機農家で、篤農家と言われている方がお歳でお亡くなりになっている。1人は畜産の関係で、低温殺菌牛乳、ジャージー牛を日本で最初に導入された佐藤忠吉さんという島根の篤農家の方が亡くなりました。宮崎駿のおもいでぼろぼろというアニメのテーマになった、山形県の高島町というところで有機農業を推進した星寛治さんが、ついこの間お亡くなりになった。前、松川町の皆さんと一緒に大分県の臼杵市に行かれたが、その時に北沢町長が知っているといった赤嶺勝人さんという大変な篤農家の方がいらっしゃって、この方が臼杵が有機に転換するきっかけだったのだが、この方もお亡くなりになった。何が言いたいかということ、そういった篤農家の方が皆さん何を言っていたかということ、今までずっと工業立国ということでやってきたが、これから将来は耕す文化の時代だと。これは、東京大学の名誉教授の木村尚三郎さんという方も本を書いているのですが、耕す文化の時代が来ると言っていた。いよいよそういう時代になってきたのかなと、私は東京にいて感じている。一番典型的なのは、今までは東京は農地を転用して駐車場にする、宅地化するというのがずっと広がっていた。しかし、コロナの中でどういうことが起こったかということ、東京都が駐車場を引っぺがすことに対して補助金を出している。駐車場を引っぺがして何になるかということ、家庭菜園、市民農園ができています。つまり、有機とかそういうことではないが、まさに車の駐車場にするよりも、菜園にした方が、はるかに利潤が上がる、そういう時代になってきている。長野に来るときに、バスで来ると新宿にバスタというところがあるが、そのの屋上にも小さい家庭菜園がある。年間貸借料がいくらかと見てみると、“2”がたたくさんついていたので、年間2万円か高いなと思ったら、よく見たら0がもう1つついていた。という時代になっている。3つ目になるが、生物多様性をどう守っていくかがテーマになっている。コウノトリやトキを呼ぶ、そういうところだとお米が高く売れる。佐渡の方だとトキがついたお米、西日本の方だと豊岡というところでコウノトリ飼いのものが、農協も含めてブランド化されている。この間、有機農業学会があった。兵庫県でコウノトリを育む農法というのを確立するのを非常に頑張った、兵庫県の農業試験場の次長にあたっている西村いつきさんというすごい普及員の方がいらっしゃるが、この方が会議でちらっと言っていた。“イオンが今一生懸命有機農家の掘り起こしを凶っている。”なぜか聞くと、“会社としてシミュレーションした時に、これから5年10年先に、消費者の意向がどう変わっていくのかというのを調べたところ、ヨーロッパ並みにみんな有機を買うようになるというのができた。”ということなので、他のスーパーに負けないように、今から一生懸命有機農

家になしをつけている。あるいは環境保全型農業をやっている農家になしをつけているという話を聞いた。やはり、いよいよこれからはそういう時代になっていくんだなとあらためて思った。

## 6. 閉 会

吉沢副会長